メビウスパッケージング株式会社

MPG エコアクション レポート 2024 (2024年10月発行)

私たちのメビウスパッケージングの環境への取り組みを広く知っていただくため
「MPGエコアクションレポート2024」を発行します。

本レポートでは、当社の環境への取り組みと2023年度の成果を以下の項目に分けて詳しくご紹介します。

1. GHG排出量の状況

2. リサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用状況

3. 脱炭素社会の実現に向けての活動状況

4. 環境パフォーマンスの外部への開示状況

メビウスパッケージング株式会社

1. GHG※1排出量の状況

当社は製品の総重量で除し、CO_2相当量に換算しています。

◆事業活動でのScope1・2　：　生産重量あたり
◆サプライチェーンでのScope3　：　販売重量あたり

《資料１》※2に示します

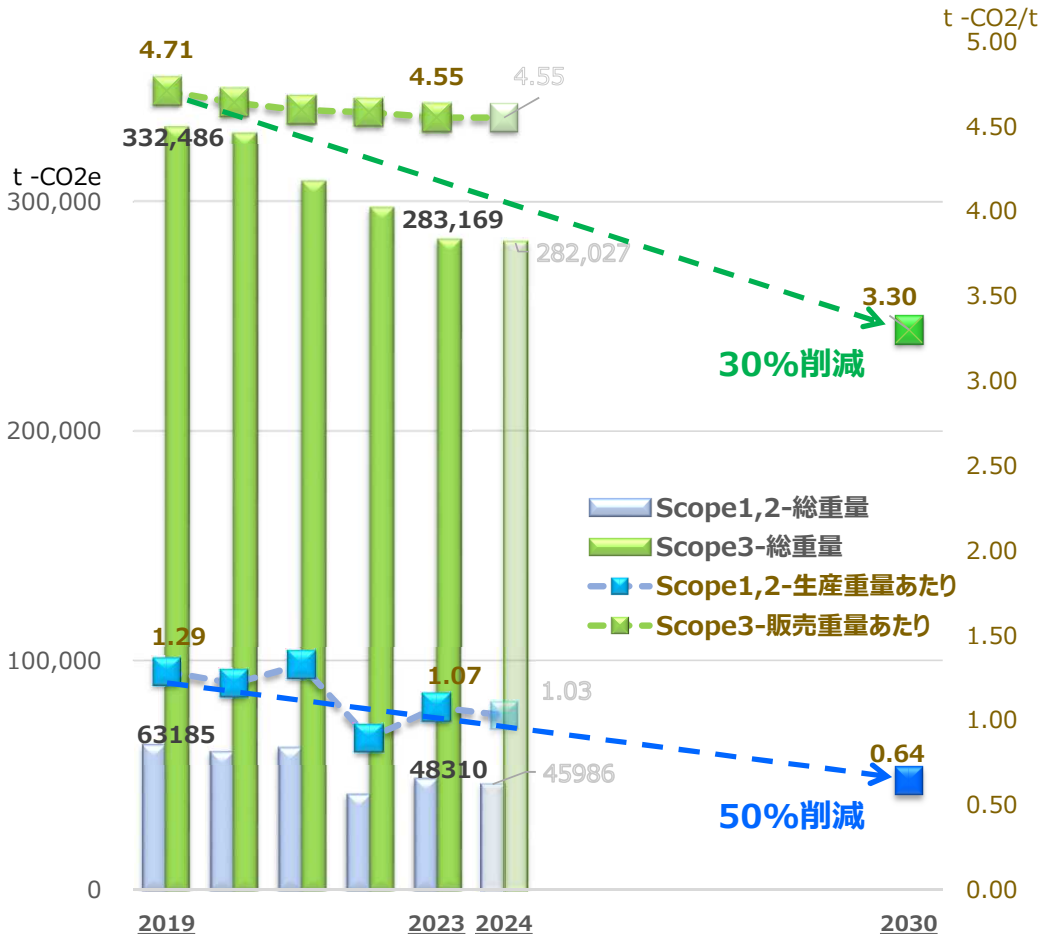
Scope1・2については、省エネ投資や生産効率の改善等の電力使用量削減活動に取り組んでおります。

2023年度については、化石電力調達先のCO_2排出を鑑みFIT非化石証書による再生エネルギーを6000[t-CO2e]分調達することで、目標計画に沿った削減となっております。

2024年度以降も省エネ活動とともに非化石証書による再生エネルギーの調達と太陽光パネル設置によるオンサイトでの非化石電力の調達の他、オフサイトPPAなどの調達も検討してまいります。

2030年度目標値0.64[t-CO2e]に向けて活動を推進していきます。

《資料１》



※1 Green House Gasの略でCO_2に代表される温室効果ガスのこと。
※2 2019年基準年、2023年度までは実績、2024年度は見込、2030年は目標

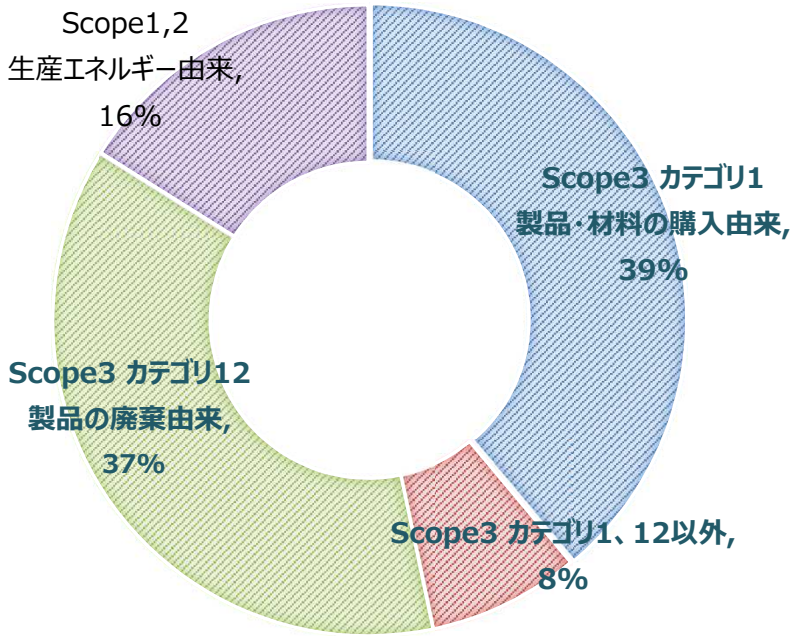
メビウスパッケージング株式会社

Scope3については、化石由来の原材料起因による排出量が80%以上を占めます。その内39%が購入した材料や製品に起因し、37%が使い終わった製品の廃棄処分に伴うものとなります。この削減にあたっては、製造時や廃棄処分時のGHG排出量が少ない材料に切り替え、廃棄/焼却処分される比率を低減していくことが重要になります。**《資料2》**

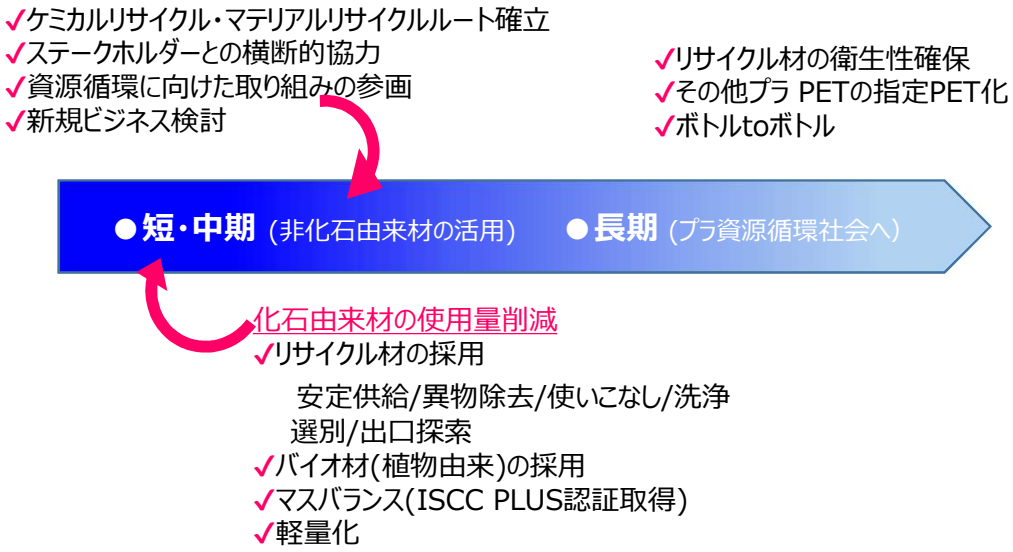
リサイクル材・バイオ材(植物由来)の調達、採用をお客様のご協力を賜りながら、リサイクル向上や軽量化により化石由来材の使用量削減や当社が考えるプラスチック資源循環社会を目指してまいります。これらの原材料調達に貢献する手段としてISCC PLUS認証の取得を一部工場で準備しております。

短・中期では、様々な角度から化石由来材の使用量削減を推進、ステークホルダーと協力しながらルート確立など、プラスチック資源循環社会に向けた取り組みに参画しながら、目標達成を目指していく考えです。**《資料3》**

《資料2》 当社の活動に関わるGHG排出量（2023年実績）



《資料3》 当社が考えるプラスチック資源循環社会に向けた計画



メビウスパッケージング株式会社

2．リサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用状況

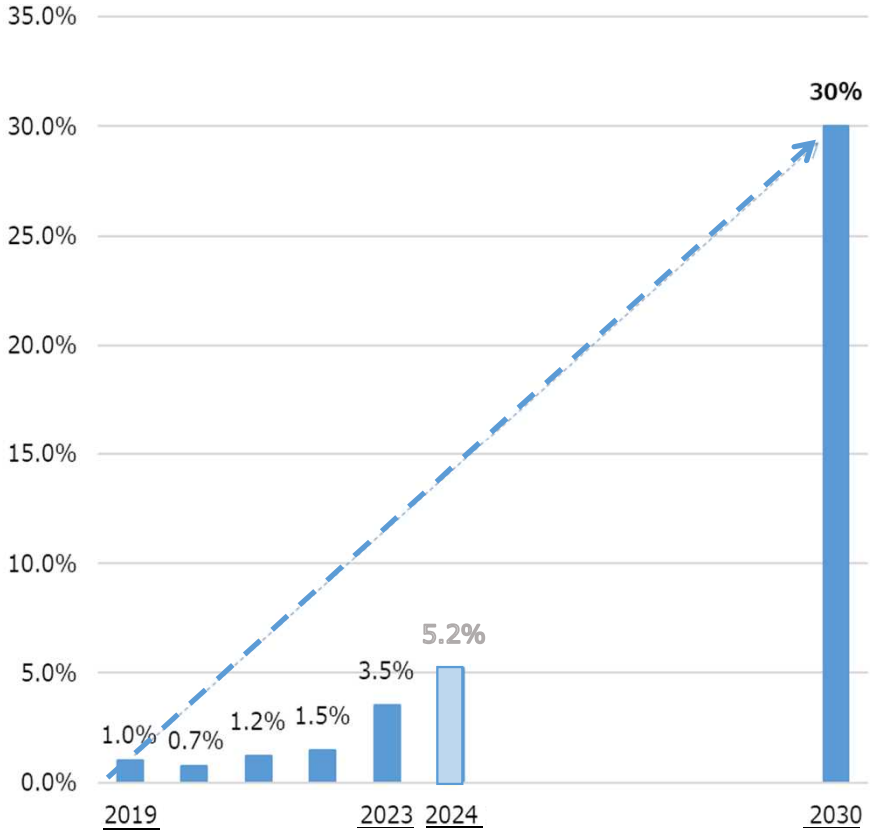
当社はリサイクル材・バイオ材(植物由来)の使用比率を2030年度に全体の30%以上に引き上げる目標を設定しております。(2019年比)

この比率の推移を**《資料4》**※3に示します。
(2023年度までは実績、2024年度は見込、2030年は目標)

食品・非食品用途ともにリサイクル材・バイオ材(植物由来)の採用は、2023年度の3.5%と徐々に実績が増えており、2024年度は5.2%に伸長予定です。
しかしながら、2030年の目標達成には多くの課題があります。

現在も多くのお客様と採用に向けた評価を進めておりますが、再生可能な原料の調達に貢献する手段として東洋製罐グループで先陣を切り、ISCC PLUS認証を摂津工場で取得予定です。
環境価値を高めた原料を使用する仕組みを整えることで、当社の目標達成はもとより、お客様にリサイクル材・バイオ材を安心してご採用いただくことへ努めてまいります。

《資料4》



※3 2019年基準年、2023年度までは実績、2024年度は見込、2030年は目標

メビウスパッケージング株式会社

３．当社製品をリサイクル可能にするための活動状況

日本国内のプラスチック容器は、飲料と一部調味料で構成されるPETボトルが使用後に回収され、再びPETボトルとして再生される循環ループを構築していますが、それ以外のプラスチック容器では、まだそこまでの状況に至っていません。当社で扱う製品は後者のものが多いため、当社ではリサイクル技術開発の企業間連携の取り組みに積極的に参加し、その課題解決に貢献をする活動を推進しています。

【現在参画中の取り組み】
・NEDO革新的プラスチック資源循環技術開発
・CLOMA　WG-2（マテリアルリサイクルの取り組み）
・CLOMA　WG-6（未来デザインの具現化)／かわさきプラスチック循環プロジェクト　https://www.tskg-hd.com/news/detail/20241002_newsrelease.html

４．当社環境パフォーマンスの外部への開示状況

①EcoVadis、CDPを通じた情報開示について

当社は2019年からCDPの気候変動質問書に詳細な情報を提供し、それを通じてお客様に情報を開示しています。また、EcoVadisからの評価結果も受け取り、これらのフィードバックを真摯に受け止め、自社の活動改善に役立てています。

②CO2見える化サービスによる製品別GHG排出量情報の開示

当社の所属する東洋製罐グループでは、2021年末より、グループのお客様への製品別GHG排出量情報の開示サービス（「CO2見える化サービス」）をスタートさせております。現行製品の実績や仕様変更による削減効果などを分かり易く提示させていただいております。本サービスを通じて、お客様に数値の根拠に裏付けられたご提案をさせて頂きながら、取り組みを加速させてまいります。

本排出量は、エコリーフ環境ラベルプログラム（カーボンフットプリント）を参考に、東洋製罐グループ共通の算定ルールを定め、算定しております。

上記に関するお問い合わせは以下までお願いします。

メビウスパッケージング株式会社 環境部
有吉健司（✉ kenji_ariyoshi@mebius-pkg.co.jp ）
植田香織（✉ kaori_ueda@mebius-pkg.co.jp ）